

学校だより

熱 沙

&lt;発行&gt;

令和4年10月19日

発行責任者：校長

和田 政男

## 3年ぶりに観客を入れた熱沙祭，参観ありがとうございました。

久々に校内に保護者が入ることが出来た熱沙祭は、会場が熱気に包まれ、展示された図工や美術の作品を鑑賞する方も多く、活気に満ちた一日となりました。

児童・生徒が演じる劇からは、それぞれのメッセージがよく伝わり、私も子ども達から元気をもらう思いでした。

今回の学校だよりにて、私の感想を、次号では参観した保護者の感想のいくつかを紹介いたします。

### G1・2「Sound of Music in Dubai」

ミュージカルらしく、子ども達の歌声をふんだんに取り入れた劇で、歌声に癒されました。

特に最後の歌の歌詞「私たちの明日は、この星の未来」は心に刺さりました。戦争や紛争、金融引き締めによる世界的な経済減速懸念、地球温暖化を始めとする環境問題等々、暗い話題が多いのですが、子ども達の姿を覗いているとなだれてばかりではいられません。一人の力は微力でも、一人一人がしっかりと考えなければならぬと、改めて考えさせられた次第です。「地球は未来の子ども達からの借り物である」という言葉を思い出しました。



### G3・4「アルケミスト～旅で見つけたもの～」

夢のおかげ「西に宝物が隠されている」を信じ、旅を続ける主人公が、最後には「宝物は自分の足元にあったのだ」ということに気づいて物語は終わります。普段の生活で、当たり前すぎて有難さを感じていなかったものが、実はそれこそが宝物であったのだ（劇では父、母の有難さ）ということ。見回してみると私たちの身の回りにはそういうものがいくつもあります。

小道具にも凝っていて、数日前から家庭に「玉ねぎの皮」の提供をお願いしていたようでしたが、衣装の染めに使っていたのですね。良い経験をしましたね。



### G5・6「シンドバットの夢」

一つ目の魔法で力を得、二つ目の魔法で大きな船と手下を得て故郷に帰った主人公が、三つ目の魔法で元に戻してもらおうという結末。「無いものねだりをするのではなく、今の状況にある価値こそ有難いものなのだ」そんなメッセージを受け取りました。

小学校5・6年生ぐらいになると、演技にも迫力を増し、下級生は大喜びでステージを観ておりましたし、大道具や小道具も力作で、船が出てきたときには観客から「おおっ」という声も聞こえてきました。皆で創り上げた劇、ということがよく分かりました。



### 中学部「未来は君と共に」

さすがが中学生。見ごたえがありました。未来のAIとロボットを便利に活用する世界。AIの反乱と人間らしさを取り戻した人類の姿。考えさせられました。ロボットが語る「この星に人間は必要ない」という言葉に「地球における人類の誕生は、神様が犯した最初のミスである」という言葉を思い出しました。

ここでも、「私たちはしっかりと考えなければならぬ」と痛切に感じました。

役者の言葉も明確で聞き取りやすく、小道具・大道具も本格的であり、見事なステージでした。

